

浜松医科大学附属病院泌尿器科 開設後1年間の外来統計

浜松医科大学泌尿器科学教室（主任：阿曾佳郎教授）

阿 曾 佳 郎, 藤 田 公 生, 田 島 惇
鈴 木 和 雄, 大 見 嘉 郎, 太 田 信 隆

浜松医科大学医療情報部

金 丸 光 隆

CLINICAL STATISTICS ON OUT-PATIENTS DURING THE FIRST YEAR AFTER THE OPENING OF OUR CLINIC

Yoshio Aso, Kimio FUJITA, Atsushi TAJIMA,

Kazuo SUZUKI, Yoshio OMI, Nobutaka OHTA

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Hamamatsu University

(Chairman: Prof. Y. Aso, M. D.)

Mitsutaka KANAMARU

From the Department of Medical Informatics, Hamamatsu University

661 out-patients visited our clinic during the first year after the opening of the clinic on November 28, 1977.

These patients were statistically analysed in this report. According to our classification as shown in Table 4, nonspecific urinary tract infection was the highest in frequency (222 cases-30.7%), followed by urinary tract stones (88 cases-12.2%), obstructive uropathy (65 cases-9.0%), congenital anomaly 57 cases-7.9%), malignant neoplasia (37 cases-5.1%) and others.

はじめに

浜松医科大学附属病院は、静岡県浜松市北部に位置し、1977年11月28日、静岡県における最初の大学附属病院として開院した。また同日より、泌尿器科外来診療を開始した。

今回、開院後より約1年間すなわち1977年11月28日より1978年10月31日までの浜松医科大学附属病院泌尿器科外来受診患者の集計をおこなったので報告する。なお疾患の分類において、同一患者が2つ以上の主要な疾患を有する場合は、別々に計上した。

外来受診患者の集計

開院後1年間の初診患者数は661名で、その性別は男性455名、女性206名になり、男女比は約2:1である。また来院患者総数は3130名であるので、患者1人あたりの平均受診回数は約5回になる。全受診患者の38%は紹介患者で、その内訳は、院外紹介21%、院

内紹介17%である。紹介患者は比較的大きな手術が適応となる疾患で特に多くみられた。ちなみに尿路性器悪性新生物の場合37例中33例、すなわち90%が紹介患者である(Table 1)。

外来受診患者数の開院後月間別推移はFig. 1に示す。開院後1年経過し最近では1カ月あたりの初診患

Table 1. 開院後1年間の外来患者集計

1977. 11. 28 ~ 1978. 10. 31			
	患者数	男性	女性
来院患者総数	3130	2191	939
初診患者数	661	455	206

紹介患者の占める割合

院外紹介	院内紹介	紹介なし
21%	17%	62%

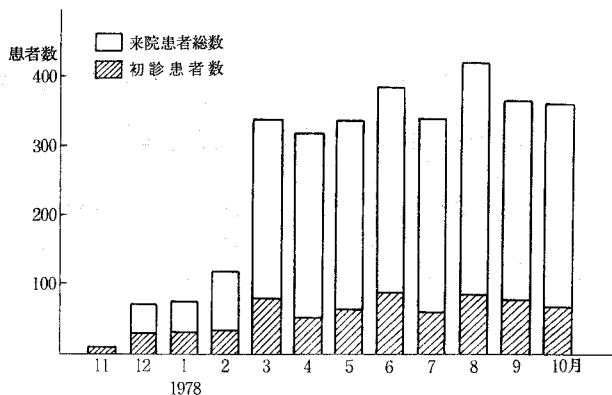


Fig. 1. 外来受診患者の月間別推移

患者数は80名前後、来院患者総数は400名前後になる。

受診患者の地域別分布は Table 2 に示すとおりで、受診患者の97%は静岡県内であり、浜松市内は全受診患者の50%以上を示し、ついで浜北市、引佐郡の順となるが、対人口比からみると、浜北市、天竜市、浜松市の順となり、当科の地域医療における重要性がうかがわれる (Table 2)。

Table 2. 受診患者地域別分布

	患者数	対人口比 (10,000)
浜松市	351	7.37
浜北市	124	17.81
引佐郡	30	6.49
天竜市	20	7.70
磐田市	19	2.26
磐田郡	18	2.03
小笠郡	15	1.76
袋井市	10	2.27
湖西市	9	2.57
周智郡	9	3.07
静岡市	7	0.15
その他	26	
県外	23	
合計	661	

性および年齢分布に関しては、男性は0~9歳と30~39歳に peak がみられ、女性では20~29歳が最も多い。全体としては、30歳代に peak が認められる。なお受診患者の平均年齢は、男性35.7歳、女性35.2歳、全体としては35.5歳である (Table 3)。

疾患は Table 4 に示すごとく頻度順に分類した。非特異的感染症222例 (30.7%)、尿路結石88例 (12.2

Table 3. Age and sex distribution

Age	Male	Female	Total
0~9	86*	20	106
10~19	34	12	46
20~29	66	53*	119
30~39	84*	42	126*
40~49	54	33	87
50~59	49	23	72
60~69	27	16	43
70~	55	7	62
Total	455	206	661

(*peak)

Table 4. Classification and number of cases

Classification	Male	Female	Total	%
Nonspecific infection	123	99	222	30.7
Urinary stone	70	18	88	12.2
Obstructive uropathy	59	6	65	9.0
Congenital anomaly	48	9	57	7.9
Malignant neoplasia	33	4	37	5.1
Microscopic hematuria	15	12	27	3.7
Nocturnal enuresis	12	9	21	2.9
Neurogenic bladder	6	5	11	1.5
Male sterility	11		11	1.5
Renal insufficiency	4	3	7	1.0
Movable kidney		7	7	1.0
Trauma	6	1	7	1.0
Hydrocele	7		7	1.0
Stress incontinence		6	6	0.8
Renal cyst	3	3	6	0.8
Tuberculosis	3	2	5	0.7
Proteinuria	3	1	4	0.6
Endocrine disease	2	1	3	0.4
Others	93	39	132	18.3
Total	498	225	723	100

%)、閉塞性尿路疾患65例 (9.0%)、先天性異常57例 (7.9%)、尿路性器悪性新生物37例 (5.1%) の順である。性別でみると、男性は全体で頻度を前述したのと同じく、非特異的感染症、尿路結石、閉塞性尿路疾

患, 先天性異常, 尿路性器悪性新生物の順である。一方女性では, 非特異的感染症が44%と約半数を占め, 尿路結石, 顕微鏡的血尿, 先天性異常, 夜尿症とつづく。

尿路感染症, 尿路結石, 閉塞性尿路疾患, 先天性異常, 尿路性器悪性新生物の内容については後述するので, ここで Table 4 の他の疾患分類について若干の説明を加える。夜尿症, 男性不妊は, それぞれ 2.9%, 1.5% を占めているが, 今後専門外来を設けこれらの疾患を検討していく必要があろう。また神経因性膀胱 11例のうち 2例は SMON にみられた症例で, 腎不全 7例の大部分は内シャント造設依頼である。外傷 6例の内訳は, 腎 3例, 睾丸 2例, 陰茎 1例である。内分泌疾患は 3例で, 原発性副甲状腺機能亢進症 2例, 原発性アルドステロン症 1例がその内容である。“others”の項目は, 他の泌尿器科的疾患, 他科疾患, 診断未確定, 包茎手術あるいは精管結紮術依頼, 泌尿器科的正常などを含む。“others”の項目のなかで興味深い症例は10カ月男子の陰嚢内間葉細胞腫がある。

i) 尿路感染症 (Table 5)

Table 5. Urinary infection
[nonspecific infection]

	Male	Female	Total
Cystitis	3	87	90
Hemorrhagic	7	1	8
Irradiation	0	1	1
Prostatitis	48		48
Balanoposthitis	31		31
Urethritis	21	1	22
Epididymitis	11		11
Pyelonephritis	1	9	10
Orchitis	1		1
Total	123	99	222

[tuberculosis]

	Male	Female	Total
Kidney	2	2	4
Spermatic cord	1		1
Total	3	2	5

外来受診患者661例中, 非特異的感染症222例 (30.7%), 結核 5例 (0.7%) である。非特異的感染症の性別疾患頻度は, 男性123例中, 前立腺炎48例 (39%), 亀頭包皮炎症31例 (25%), 尿道炎21例 (17%) の順である。一方女性99例中, 膀胱炎87例 (88%), 腎盂腎炎 9例 (9%) で, 膀胱炎が女性の非特異的感染症の大部分を占める。特殊型膀胱炎として, 出血性膀胱炎 8例, 放射線性膀胱炎 1例があげられる。結核は腎 4例, 精

索 1例である。

ii) 尿路結石 (Table 6)

尿路結石88例中, 尿管49例 (63%) が最も多く, ついで腎29例, 膀胱 3例, 尿道 1例の順である。尿路結石の発症頻度については, 男子は女子の約 4倍である。

Table 6. Urinary stone

	Male	Female	Total
Kidney	17	12	29
Ureter	49	6	55
Bladder	3		3
Urethra	1		1
Total	70	18	88

iii) 閉塞性尿路疾患 (Table 7)

閉塞性尿路疾患として Table 7 に示すとおり, 前立腺肥大症, 水腎症, 尿道狭窄, 膀胱頸部硬化症, 膀胱尿管逆流現象を分類した。閉塞性尿路疾患男性59例中, 前立腺肥大症が48例 (81%) と大部分を占め, 尿道狭窄 4例 (7%), 水腎症 3例 (5%), 膀胱頸部硬化症 3例 (5%) である。一方女性は, 6例中水腎症 5例を示し, 水腎症の原因は腎盂尿管移行部狭窄 3例, 子宮癌 2例である。

Table 7. Obstructive uropathy

	Male	Female	Total
Prostatic hyperplasia	48		48
Hydronephrosis			
U-P junction stricture	1	3	4
Uterine cancer		2	2
Retroperitoneal tumor	1		1
Schnitzler	1		1
Urethral stricture	4	1	5
Bladder neck sclerosis	3		3
V U R	1		1
Total	59	6	65

iv) 先天性異常 (Table 8)

Table 8 に示す疾患項目を, 先天異常とした。その他の項目 4例は, 単睾丸 1例, 陰茎屈曲 1例, Gartner's duct の膿瘍 1例, 囊胞腎 1例である。性別で

Table 8. Congenital anomaly

	Male	Female	Total
Cryptorchism	20		20
True phimosis	16		16
Horseshoe kidney	1	3	4
Hypospadias	4		4
Complete double ureter	1	2	3
Renal agenesis	1	2	3
Sponge kidney	3		3
Others	2	2	4
Total	48	9	57

みると、男性48例中、20例（42%）が停留辜丸であり、ついで真性包茎16例（33%）、尿道下裂4例（8%）、海綿腎3例（6%）となる。女性では、馬蹄鉄腎3例、完全重複尿管および腎無形成ともに2例である。

v) 尿路性器悪性新生物 (Table 9)

尿路性器悪性新生物は37例であり、膀胱腫瘍16例（43%）が一番多く、前立腺癌は10例（27%）を示す。したがって、膀胱腫瘍および前立腺癌で全尿路性器悪

性新生物の約70%を占める。辜丸腫瘍4例（11%）はすべて絨毛癌要素をもつ腫瘍である。腎細胞癌は3例（8%）で、そのうち2例は初診時遠隔転移が存在した。その他の悪性新生物は表に示すとおりで、尿道腫瘍は男子尿道原発の腺癌であり、後腹膜腔腫瘍は悪性リンパ腫である。

ま と め

浜松医科大学附属病院泌尿器科外来は、1977年11月28日診療を開始した。診療開始より1978年10月31日まで約1年間の受診患者661名の集計をおこない、患者数の月間別推移、患者の地域別分布、性年齢分布、疾患内容および頻度を報告した。

本稿の要旨は第121回東海泌尿器科学会において田島 博が発表した。また資料の整理に際しての当科外来看護婦岩尾克子嬢をはじめ諸嬢の援助に感謝する。

(1978年12月13日受付)

Table 9. Malignant neoplasia

	Male	Female	Total
Bladder	12	4	16
Prostate	10		10
Testis	4		4
Kidney	3		3
Renal pelvis	1		1
Penis	1		1
Urethra	1		1
Retroperitoneum	1		1
Total	33	4	37